

亀田メディカルセンターリハビリテーション事業部(編集)

ポケット版 PT 臨床ハンドブック(第2版)

評者 隈元庸夫

(埼玉県立大学保健医療福祉学部)



本書は、第2版である。しかし、第1版とはまったく異なる書籍となっている。本書の書評を依頼されたとき、正直、第2版だから第1版との違いを読むだけでなんとかなると高を括っていた。しかし、これは大きな間違いで、書評原稿の締切をかなりオーバーしている。本書の序文に、今回の改訂のポイントは、周術期呼吸理学療法、人工呼吸器など急性期医療にがん患者や腎疾患患者に対する理学療法を加えた、と書かれているが、そんな程度のものではない。

とにかく第2版は全項目が「理学療法」の視点であらためて記載されている点が大きな変更点である。そのため、適当に流して読むことができず、結局、最初から最後550頁まで読破してしまった。第1版をお持ちになっている読者は信じられないかもしれない。まずは、第2版を手に取って、「引用文献」と「EBMの活用」、ここをまず見ていただきたい。それだけで、第2版の生まれ変わり方を理解していただけたと思う。

第1版には「質の高いリハビリテーションの提供」のために知っておくべき事項が見事に簡潔かつ必要十分に記載されており、そこには著者らの「リハビリテーション」に対する毅然とした気概が感じ取れた。そのDNAを受け継いだ第2版はさらに「質の高い理学療法の提供」のために修得しておくべき事項の記載が格段と充実した。引用文献、第1版では記載されていなかった文献番号がきちんと本文中に明記されている。そのおかげで、本文の妥当性の検討が可能となっている。その引用文献は第1版からほぼすべてupdate

され、Cochrane reviewを含めた2015年までのなかで理学療法の視点から選定されている。EBMの活用、この項目は単に加わっただけでなく、理学療法としての視点で選定されている。そして、本書の新たな特徴は「チェックポイント」。これが良い。これも理学療法の視点で選定されているため、新人理学療法士にとっては本文の理解度の確認だけではなく、理解すべき事項の優先性がより把握できるであろう。また、第1版では「リハ評価」となっていたものが、第2版では「理学療法評価とその解釈」となった。治療、これも「リハ治療ポイント」から「理学療法治療のポイント」に変わった。これらはタイトルだけでなく、記載内容がまったく変更されている。これらの内容についてさらに理解を促すには、一つひとつ具体的な評価やトレーニング場面のイラストがさらに追加されれば……、と思うが、もうそれは「ポケット版」とはいえないものになってしまうのだろう。

最後に、しつこくなってしまうが、第1版をすでに購入されている読者もぜひ第2版も一読いただき、近年の「理学療法」について再確認していただきたい。そして、筆者らには第3版の作成、出版を切に願う。

● B6変, 560頁, 2色刷

定価: 本体 4,800円+税

三輪書店刊, 2015年